

刊夕日七廿月九

常磐每日新聞

定価 一月五元、三月十五元、半年三十元、一年六十元
発行所 常磐毎日新聞株式会社
印刷所 常磐毎日新聞株式会社
電話 六三〇〇
郵便 常磐毎日新聞株式会社

往生極樂院

真繼、雲山

お寺の名前には往生院とか、極樂寺とかいふのが、少くない、何とはなしになつかしさ、慕はしさを思はしめる。世のなかには、往生極樂を嫌うていつまでも姿婆の苦海に嘔じりついでたたいといふ人々も澤山にあるが、如何に嘔じりついで見ても、結局ゆかねばならぬところとすれば、強いて苦海に嘔じりついでく無駄骨を折るのは智慧のない話である。人生のまことのがたを見きわめると、さうした苦慮屈托が何の役にも立つものでないことが分る。但しこれは悟つて見るとの話で、生きたい／＼と迷ふてゐる人間にこんな話をすればキツと、どやされる。

左りながら、どやされても構はぬ、人間の終局とはさてもあはれな姿である。やれ貧乏だ、借金だ、名譽だ、金だ、戀だといふて、苦しみ通した揚句の果てが獨去獨來、獨生獨死、たゞひとり暗やみの世界へ旅立たねばならぬ。苦しむのは誰れが苦しませるのでなく、迷ふてゐる當人の心が、我れと自ら苦しんでゐるのであるが、それでも當

人は本真剣に苦しんでゐるのであるから、その苦しむたるや並大抵のことではない。五十年といふ長の月日を苦しみ通して来たことであるから、せめてその最後だけは呑めや唄へで、面白おかしく死ぬることかといへば、中々どうして七七八八の肉體的苦痛、それに愛別離苦の精神的憂愧が倍加して、五十年の苦患を一時に積み重ねたやうな苦しみをせねば、無事にある世の人とはなれぬのである。いくら何でも、これでは造物主の仕打があんまり慘酷すぎる。

しかし人生が、本來さういふ仕組であるといふことなら、今こゝで無力な人間が何故で不平を並べ抗議してみたところで、急には改正される見込みもない。こゝは一つ人力の及ぶ範圍で人工的な、官營の往生極樂院を建設して貰ひたいといふ新案を提言する。

それは、五十年間の貴賤榮落は如何やうであらうと先づ已むを得ぬから、せめてその臨終だけは貧富の差別なく一律平等に死なせてもらはうといふのである。ちよつと外國へ旅をしようとすゝめや唄へ唄への送別會を開いてパンザーイとか何とか騒ぐくせに、十

の戀は要するに本案の私設的なものであり、国立往生院の出現によつて大磯、華嚴はアト片附の世話が省ける。

極悪の死刑囚徒でさへ、締めらるゝその朝には鯨腹御馳走をあてがはれて、彌陀の回向にあづかるといふのに、醫術と科學と智慧の發達した今日、くるしみの往生は、あまりに藝のない話である。

斯やうな制度にすると、極樂往生の志願者が押すな／＼で繁昌して、人間の種切れになりはせぬかと心配する仁者もあらうが、ナニ生に執着する人間の本性はこのくらゐ結構な往生院を官設しても、矢つぱり死にとむない／＼で屠所に牽かる、羊の如く往生院の入口を逃げまわること必定と覺ゆるが如何に。

それでも死にたいといふ人や、世壽盡きて辭去する人のためには、國家は佛様に代つて、往生院に迎へ取ることが、慈悲な政治といふものぢや。貧乏人の税金滞納を差し押さへるばかりが國家の能事ではないぢや。

世界中の智慧が發達して軍備廢止、戰爭廢止となれば、用のない人間は有り餘つて来るし、生活難で自殺者は増す一方といふので、鐵路の鋪の掃除代と手数が崇むやうになれば、モウ百年も経つうちには、私案の往生極樂が國立となる時代が来るであらうぞ、喝。

【完】

學生服賣出

温かい丈夫な黒小倉通學服を豊富に取揃へ特價にて提供

小學用(長ズボン付) ¥0.85
全.....特製品 ¥2.00
中學用特製品 ¥2.90

あかや洋服店 平二電203

吉田眼科病院

平野屋町、電話六八番

ツブシ・金銀 高價買入

修繕 迅速 丁寧 廉價

星野時計店

平三丁目驛前通り

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

一般物質 類券債種各

店質井三

岸川目丁四町平 番六〇六話電

新製品

コーヒー通の待望せる 挽立コーヒーの快味

四半卦罐入 〇・三五
半卦 〇・六五

コーヒー發賣


グアテマラ 三割五分
モアテマカ 三割五分
ジャパ 四割五分

速席挽立てを差上げます

大勝園コーヒー部

電三九六番

イヤ！君！
いゝ冬服を求めたね
断然三二年型だよ
いやコレカネ！
例の.....「ソレ」
正札堂



六三四電通場車停丁四町平

小學校對抗競技の 可愛い選手達

平町各小學校で決定

平町各小學校にては来る十月二日午前九時より磐中グランドに於て行れる石城郡第三區小學校對抗陸上競技大會に優勝すべく目下係訓導指導の下に猛練習中であるが各出場選手は左の如く本日發表された

- △第一小學校(百米)黒井 郭祐 佐藤喜一 山崎福次郎 緑川浩行 矢代弘文 中島利夫(二百米)瀬戸利男 井上朗 寺田久 齊藤武男 佐藤咲藏 猪狩五郎(四百米リレー)山崎福次郎 黒井郭祐 小川一郎 佐藤喜一 阿部洪祐(八百米リレー)緑川浩行 塚本慶治 中島利夫 佐藤喜一 小林正久 瀬戸利男 寺田久 井上朗 鈴木正伸 齊藤武男 君島敏雄 猪狩五郎 佐藤咲藏(ボールスロー)田中忠太郎 關内弘吉 伊關太郎 緑川重春 吉田伴四郎 矢野浩一 森下繁雄 小椋次男 緑川重一 田山好雄 松田誠 小谷定男 佐藤咲藏 富田芳郎 五十嵐藤作(六十米ハンドル)小林正久 先崎清一 中島利夫 矢代弘文(走高跳)岩崎久治郎 山崎道雄 渡邊清吉 平松光夫 君島敏雄

- 藤兵策 富田芳朗(走巾跳)増尾三郎 星野隆 山崎福次郎(三段跳)瀬戸利夫 成地岩雄 小野隆夫 猪狩五郎 天下井勇明 齊藤武男△第二小學校(五十米)鈴木トミ子 正木千鶴子(百米)中村春子 阿部弘子 武田早苗 矢島ノブ 國井キミ 高橋道子(四百米リレー)鈴木トミ子 正木千鶴子 深谷イネ 中村ミゲ 中村春子 丸山八重子 大谷ノブ 福田千代子 武田早苗 矢島ノブ 奥津貞子 松本初子 高橋道子 島津カツ子 飯島フミ 國井キミ(走巾跳)正木千鶴子 會澤ヨミ 中村春子 阿部弘子 富田貞子 本間アイ 國井キミ

- 飯島フミ(ボールスロー)北村コト子 山野邊トミ 隈川慧子 熊トリ子 奥津貞子 矢島ノブ 島津カツ子 小田孝子△第三小學校(五十米)大越ワカ 高田秋子(百米)瀧田平藏 加藤弘之 國井武之 難波一郎 高野弘子 鈴木ひで(四百米リレー)加藤弘文 高木登 佐藤進 瀧田平藏 青木タキ子 猪狩フヨ 高田秋子 大越ワカ 高野弘子 荒木トキ 今田操 鈴木ひで(八百米リレー)國井武之 遠藤吉雄 難波一郎 鈴木福壽(走巾跳)植村力夫 佐藤進 大越ワカ 高田秋子 高野弘子 今田操(ボールスロー)瀧田平藏 加藤弘之 高木タキ子 渡邊照子 鈴木福壽 遠藤吉雄 鈴木ひで 吉野マツノ(走高跳)白土弘 太田藤助(六十米ハンドル)白土弘 馬場一男

神明大蠶

昨日の高値は 縣下第二位

尻上りの繭相場に 養蠶家がホク／＼

晩秋蠶取期に入つた最近の四倉繭市場は横濱繭況の影響を受けて再び高値を呼び昨廿六日は白繭三百八十九貫を最高五十六圓九十銭最低四十二圓四十銭を買馴

新川改修工事を 失業救済事業に

正式に平町へ委託

平町外二ヶ村郷水防組合では昨廿五日午前九時より平町役場會議室に於いて歳入の豫算更正に就いて協議した同組合では新川改修工事の竣功期日を早める爲め此際平町の失業救済事業として平町に委託する事を正式に満場一致を以つて決議し近く改めて平町の失業救済事業として縣に申請する事となつた

小名濱町水道の 敷設計劃が再燃

是非共漁港竣工前にと 町有志が意氣込む

石城郡小名濱町の水道設置計劃は其後立消えの姿にあつたが漁港竣工の際には是非水道が必要の處から設置計劃が再燃して一部有志中には漁港竣工前にはそれが敷設をなすべく運動中である

衛生會議

豚疫豫防講話

平町管内各町村衛生係の事務研究會は来る廿八日午後一時より平町會議室に開かれ左記事項を協議するが午前中は縣農務課河原技師の

濱三郡の教員が 最初の籠球大會

十一月廿二日に開催

一、七年度平町歳入出特別會計豫算の件
一、救済工事費起債の件
一、退職教員慰勞金給與の件
一、七年度平町歳出更正豫算の件

濱三郡小學校教員籠球大會は本年十一月二十三日午前九時より平第一小學校グラウンドに於て縣体育協會石城支部主催の下に催される事になつたが第一回の催しとて人氣を博すと豫想されて居る

教員野球は 既報去 十一月中旬 二十 三日雨天の爲め延期された 濱三郡小學校教員野球大會 は来る十一月中旬頃催され ると

平町人事

回出生

- △胡摩澤一〇〇 小曾納夏 吉氏三女サト子
- △舊城跡二〇 宗像謙光氏 二男逸夫
- △南町三三 加藤一三氏祖 母サダ(八七)
- △久保町二三 當時鹿兒島 市樋之口七二 佐々木君子(三ツ)
- △新川町二四 當時北海道 足寄郡陸別村字トマムハ ン佐藤雅子(七ツ)
- △大工町二一 石井齊之丞 妻ミイ(四九)

平町會 明日開會

平町會は明廿八日午後一時より會議室に於いて開會左記議案を附議する事となつた
一、救済工事費特別會計

御料 鹽

田町三三屋

電話三三三番

紙質純良・印刷鮮明
御名前入用箋
百枚綴一冊廿錢(三冊以上割引有)
平・長橋 常磐毎日印刷株式會社 (電630)

今様娘浦島

數奇を極めた其運命

小母さんに誘拐されて

上京して見れば大震災

父母は何處に

昨夜平署人事相談係に東京府下龜戸町四丁目七二齒科技工武田省吾(三)及び同人の内縁の妻市尾ミヨ(三)の兩名が出頭し妻ミヨの兩親を探して貰へ度いと申出たがミヨは十年前石城郡小川村に住む兩親の許から平町の

荒物店へ奉公に出て働いて居た處或日の夕方道路で出遇つた親切な小母さん(姓名不詳)の口車に乗せられて上京したが上野驛に着後間もなく起つた大震災の騒ぎで其小母さんに捨てられ恐怖と餓飢に焼跡を彷徨ふ内に警視廳の手に救はれ孤兒院に收容されて

成長した が昨年前記武田氏に性質を見込まれて妻に娶られ今では何不自由なく暮す身になつたが幼くして兩親の許を離れた爲め奉公先も判然せずたゞ小川村で育ち父は權引を職として居た事が臆氣ながら腦裏にある丈の爲めに何んとかして兩親を尋ね出さんと夫婦共々出頭したとの事に

同署でも 同情し種々手配したが依然判明しないといふ

酒も飲むな!

自動車にも乗るな

鹿島青年の決議

石城郡鹿島村字三澤部落青年分團にては本月上旬農村不況対策の爲め團員の實施事項として左記事項を

- 一、公式の場合にても禁酒する事
- 一、頭髮は各自バリカンを使用して散髪料を

大枚千二百圓の 啣筒置場を設置

石城郡湯本町消防組では工費千二百圓を以て同町湯泉

張つた網に

梨泥棒引ッ掛る

失業した揚句此の盗み

石城郡内郷村字御臺境地内梨畑に毎夜の如く梨泥棒が忍入し相當被害に達するの

病青年の縊死 石城郡飯野村大字中山字下内陽吉三男鈴木國雄(三)は東京に出稼中肋膜炎を病み歸郷静養中の處去る廿五日早朝家出せる儘歸宅しないので消防組員が出動附近山林を探

註文取の片手間に

葬具屋悪心を起す

高價な煙草入と煙管を

何食はぬ顔で一才失敬

平町紺屋町造花商佐藤勇太郎(三)は本月十日石城郡湯本町字三箇岡田屋呉服店事

金々具付煙草入及び銀や珊瑚の象眼で造られた煙管を窃取して金銀等を取外し三丁目某古物商に十圓餘に賣り拂つた事發覺昨日平署に

明日のラジオ

今夜は北東の風 曇り明日は南東の風曇り

廿八日

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 ラヂオスケッチ「海の思ひ出」J.O.A.K.唱歌隊
- 後七、三〇 講演「國防と在郷軍人の使命」陸軍大將鈴木莊六
- 後八、〇〇 放送舞臺劇

明日の部

- 前九、一〇 料理献立「クラブフライ」朝倉長吉
- 前一〇、三〇 家庭講座
- 後一〇、〇五 映畫物語
- 後二、〇〇 家庭大學講座
- 後二、〇〇 東大助教授青木誠四郎
- 後二、二五 運動競技「六大學野球リーグ戦試合状況」豫備日
- 後五、四〇 運動競技「ロイヤルジャイアント對仙鐵」仙臺スポーツ球場中継

百澤家の慶事

平町四丁目百澤易興氏の令孫トミ子嬢は町議佐々木龍若氏夫婦の媒酌に依つて双葉郡唯一の多額納税者たる久之濱町雜貨商橋本久太郎氏の令息久平氏と婚約成り明廿八日の大安吉日を選んで華燭の典を擧ぐる事となつた

平裁判たより

- 石城郡四倉町字仲町六十番地自動車運轉助手新妻富雄(三)は無免許にて本年七月六日茨城縣住實地内國道に於て貨物自動車を運轉自動車取締令違反として科料十圓
- 同郡江名町大字下神白字網取二十七番地漁夫高津喜久治(三)は本年六月三日同村高津富壽方に於て同人と口論の末鎌竿を以て同人を毆打し全治約一週間を要する打撲傷を與へ傷害罪として罰金二十圓
- 同郡湯本町字笠井三十番地松浦久次郎方無職東山ツマ(三)は無免許にて本年七月七日八日の二回に亘り上小川村松本タキ方に於て同村吉田イノ外數名に對し糸術を施し料金を受領し鍼術糸術營業取締規則違反として罰金二十圓に本日各々平區裁判所に於て略式命令を以つて處分された

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電一七〇

- 平職業紹介所報告
- 求人者の部
 - △ミシン見習 十七才 尋卒 仕着小遣(東京市某)
 - △雜役 二十五才 尋卒 給料面談(四倉町某)
 - △納豆製造見習 十八才 尋卒 月四圓位(平町某)
 - △豆腐賣子 三十才以下 尋卒 賣上の二割(原ノ町某)
- 回求職の部
 - △車力 四十才 文字を解す 給料面談(安達郡某)
 - △車力 五十才 尋四修 給料面談(平町某)
 - △女中 四十五才 無學 給料面談(大野村某)
 - △給仕 十九才 高卒 給料面談(磐崎村某)

慕末市剣術

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

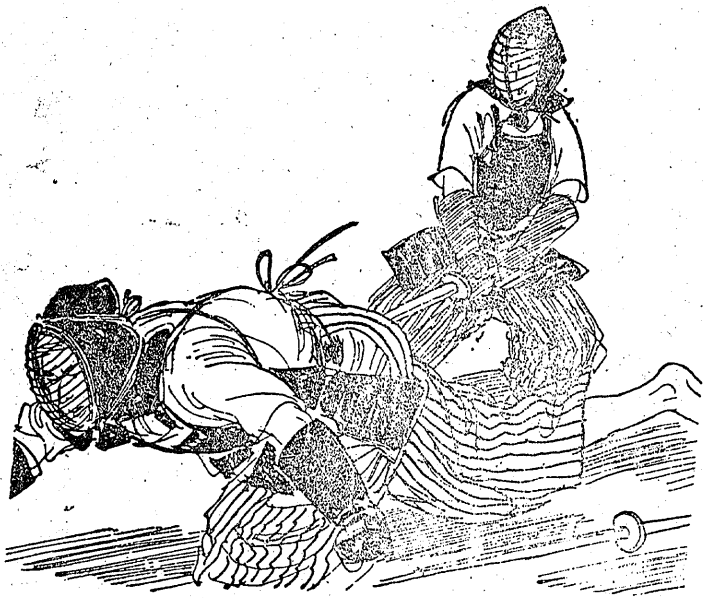
第百六十一席

女流劍客里見靜枝

お静の手なみ

千葉の門人の内にて麒麟と云はれた平手造酒、聖人の世ならずは麒麟鳳凰は出ないさうで、徳川の泰平を謳歌した川柳に「國家安穩出やうかの麒麟」といふ警句があつた。今日もビールに麒麟がある、これは世界平和の吉兆、その麒麟と稱された平手造酒、劍術にては師を凌ぐ技量がある、最も周作先生の嫡子榮次郎といふ方は阿父さんよりも出来たさうですが、何にしても平手は竹刀を取つては達人の域に達してゐる、それが道場へ来て

それを去るやうに致せ」柏「イヤ、そのやうなことを申すお静は定めし武藝の心得もござらうこれ程の手内であるかそれを實驗いたす」



造「さうか、お静どの、あ

造「コレ柏壁、貴様はこのお静に悪い太刀癖があると云はれて大層立腹いたしました、腹を立つ處はあるまい己れの悪い事を教へて呉れた、千萬恭ない、能く御忠告下されたと禮を申すが當然であらう」

なには劍道を學びし事がござるか」

左右に分れた、柏壁はひと打ちに致さんと上段に振冠つた、お静は下段に取つて

下つてこれを避けた柏壁は又々打を入れる、ボン／＼激しく打合つたが、ボロリ竹刀は手元を放れた、これはお静に巻落された爲アツと云つた柏壁、飛び附くをスリ脱けたお静は竹刀にて敵の腰を突く、バツタリ倒れた、柏壁は參つた——と申したが、その形の悪い事、これを見てお静がサツと扇を抜いてお静を煽き立て

静「あら、是程の腕があらうとは思はなんだ、後世恐るべし、コレ柏壁、これへ来てお静どのに詫ろ先刻より無禮のみ致し居る」

と云ひながら面を取ると頭から白煙を噴出した、お静は道具を脱り汗を拭ひニツコリ笑つたがその愛嬌のある事

静「柏壁さん、誠に失禮を致しました、どうぞお氣にさへられませぬやうに」とかう云ひし後平手に會釋して道場を出て行きました、跡に柏壁、栗橋、間々田の三人はお静の腕前に驚いて、何處で劍術を學びしかとあきれてゐる、造酒はニヤ／＼笑つてゐたが

静「女なりとも侮るな、あの女は只者ではないぞ」

柏「蜘蛛の精靈かな」

造「そんなものではない、當家に奉公いたしたは何ぞ望みある事と思ふ」

柏「先生の寢首でも狙つて居りますか」

造「馬鹿な事を云ふな、儲

ても不思議な女だ」と申したが何時か此事が千葉周作先生の耳に入りそれ以來お静の舉動に目を注いでゐた

周「静や、これへ參れ」

周「御用でございますか」

周「少し尋ねる事がある、秘すな、打明けて云へ、心にある事を申せ、次第によつては、力にもなるであらう」

と云はれてお静はそれに兩手を突き頭を下げました

下つてこれを選けた柏壁は又々打を入れる、ボン／＼激しく打合つたが、ボロリ竹刀は手元を放れた、これはお静に巻落された爲アツと云つた柏壁、飛び附くをスリ脱けたお静は竹刀にて敵の腰を突く、バツタリ倒れた、柏壁は參つた——と申したが、その形の悪い事、これを見てお静がサツと扇を抜いてお静を煽き立て

静「あら、是程の腕があらうとは思はなんだ、後世恐るべし、コレ柏壁、これへ来てお静どのに詫ろ先刻より無禮のみ致し居る」

と云ひながら面を取ると頭から白煙を噴出した、お静は道具を脱り汗を拭ひニツコリ笑つたがその愛嬌のある事

静「柏壁さん、誠に失禮を致しました、どうぞお氣にさへられませぬやうに」とかう云ひし後平手に會釋して道場を出て行きました、跡に柏壁、栗橋、間々田の三人はお静の腕前に驚いて、何處で劍術を學びしかとあきれてゐる、造酒はニヤ／＼笑つてゐたが

静「女なりとも侮るな、あの女は只者ではないぞ」

柏「蜘蛛の精靈かな」

造「そんなものではない、當家に奉公いたしたは何ぞ望みある事と思ふ」

柏「先生の寢首でも狙つて居りますか」

造「馬鹿な事を云ふな、儲

ても不思議な女だ」と申したが何時か此事が千葉周作先生の耳に入りそれ以來お静の舉動に目を注いでゐた

周「静や、これへ參れ」

周「御用でございますか」

周「少し尋ねる事がある、秘すな、打明けて云へ、心にある事を申せ、次第によつては、力にもなるであらう」

と云はれてお静はそれに兩手を突き頭を下げました

下つてこれを選けた柏壁は又々打を入れる、ボン／＼激しく打合つたが、ボロリ竹刀は手元を放れた、これはお静に巻落された爲アツと云つた柏壁、飛び附くをスリ脱けたお静は竹刀にて敵の腰を突く、バツタリ倒れた、柏壁は參つた——と申したが、その形の悪い事、これを見てお静がサツと扇を抜いてお静を煽き立て

静「あら、是程の腕があらうとは思はなんだ、後世恐るべし、コレ柏壁、これへ来てお静どのに詫ろ先刻より無禮のみ致し居る」

平町南町
看護婦急派
の求めに應
じます

平町南町
看護婦會
電話三〇七番

木村科醫院
平町五丁目橋際
電話三〇〇番

●は切貨●
の番三四三話電
ミシサ
!!!へーシクタ和昭

冬
の通學服
原料高に逆行した
英斷的の特價提供

黒小倉長ツボン付
一年生用 八十五錢ヨリ
弊店特製
一年生用 一圓五十錢ヨリ
モリタヤ洋品店
平5丁目 電353

金銀高價買入
東京(り)商店
出張所 旅館 會津館
平驛前(元平劇場跡)
電話六四八番

御一報次第社員參上有利に御相談も致します。

葬具と
靈柩自
動車御
用達
造花
は
町川新町平
屋本橋
番三六一話電

毎度御ひいき
有難ふ御座ります
うなぎの御用命は
うなぎ
奴
平町田町(電話二二番)
ホール御座敷の訂付あります。皆様の御立寄を!!